

研究結果報告書

近代薩摩藩朝鮮語通詞における朝鮮関連情報収集と知の流通

所属：西江大学校

役職：研究教授

氏名：許 芝銀（他1名）

本研究で主に考察したのは、薩摩藩の朝鮮語通詞である。「前近代日本の知の問題という範疇」で薩摩藩が朝鮮語通詞を通して集めた朝鮮関連の多様な情報をどのように活用し、それが朝鮮政策にどのような形において反映されたのかを考察した。

本研究では『漂民對話』という薩摩藩の苗代側地域から朝鮮語学習のため使われた学習書の内容を中心に考察した。これを通じて薩摩藩で直接または間接的に朝鮮についての情報を入手した事実を確認できた。

薩摩藩が収集した朝鮮関連情報は対馬藩と朝鮮との関係及び使行の種類及び性格、朝鮮の訳官、鉄砲、虎皮、海産物、米の値段、砂糖ジャガ芋、農産物、竹細工品、朝鮮の文物など、とっても多様なものであった。

このように薩摩藩から朝鮮情報に関心を持った理由として以下のような事実が挙げられる。第一、西南雄藩として地域的に九州と本州の終わりの部分に位置して、幕府の直接的影響力から離れていたため、海外情報入手の面では他よりも上にたっていた。第二に、朝鮮と関連された情報は比較的多く持っていることによって、外の藩に比べ、優位を占めることができた。

結果的に薩摩藩は収集した朝鮮関連情報を本にして、以後明治維新の時期に、藩の影響力を高め、藩の政治的発言権の増大と中央政界への進出を謀る事ができたと思われる。このような朝鮮関連情報が対以後の朝鮮政策決定に具体的にどのような使われ、どのような影響力を及ぼしたのかについては、本研究期間までには明らかにすることはできなかった。ただ薩摩出身の西郷隆盛が明治初期、征韓論を主張した背景には薩摩藩が持っていた朝鮮関連情報が多く働いていたと思われる。西郷隆盛など明治新政府の薩摩藩出身がどのように朝鮮関連情報を接し、またどのような情報に多くの関心を持っていたのかの部分に関しては、以後の研究課題にしたい。

本研究を進めていき過程で、対馬藩の朝鮮語通詞と朝鮮訳官の間で交したハングル文書を接することができた。このハングル文書の内容分析を通じて朝鮮語通詞と訳官の癒着関係が確認できた。薩摩藩の場合、朝鮮語通詞が朝鮮で薩摩藩に漂流してきた朝鮮人漂流民間情過程で収集した情報がどのような経路を通して、どのような内容が薩摩藩主の手に届いたのかまで探る必要が有ると思う。また伝達過程で流された状況なども考察必要が高いと思われ、この問題は以後の研究課題として研究をすすめていきたい。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

許芝銀「朝鮮琉球使行, 阿蘭陀人の江戸訪問と幕府の法令先例」、西江大学国際学術会議、
2018、10,19

許芝銀「對馬易地通信交渉と朝鮮語通詞のハングル文書」、成均館大学国際学術会議、
2018、11,25

李基原「朝鮮通信使と徂徠学派—異質的知の衝突」、西江大学国際学術会議、
2018、10,19

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)